

令和2年度 岩手大学教育学部附属中学校 国語科 研究主題
「ことばの力」を実感し、実生活に生かそうとする学習者の育成

◎ 中村 正成, 佐々木淑乃, 鈴木 駿

1. 主題の設定理由

◎ 今日の教育課題を受けて

- ・AIと共存する社会が訪れたとしても、言語を理解し、価値づけ、運用していく力はこれまでのように人間社会を構築する上で必要である。
- ・人工知能がどれだけ進化し思考できるようになったとしても、その思考の目的を与えたり、目的のよさ・正しさ・美しさを判断したりできるのは人間の最も大きな強みである。(H29 学習指導要領解説国語編)

◎ 学習者の実態

- ・国語科で身に付けた「ことばの力」を、単元を越えて活用したり、他教科や領域での学習、また**日常生活などで意識的に活用したりする態度に欠ける。**
- ・テキストに出会ったときに、自らの読みを深めるために、疑問をもちその**疑問を解決しようと主体的に読み進める姿勢に欠ける。**

2. 国語科で育成を目指す資質・能力

思考力等	協調性等	主体性等
各自がもつ知識や技能をもとにテキストを解釈し、人との関わりの中で相手の立場を考えながら言語を通して表現する力	他者や社会と言葉を通じて関わりあいながら、言葉によって自分の考えを形成したり再構築したりする力	自分自身や社会生活の向上のためにテキストを価値付け、課題化して読もうとする力

◎ 上記資質・能力の育成によって発揮を期待する「人間の強み」

現実世界における「ことば」を理解し、様々な状況において用いられる「ことば」に**意味づけをしたり価値付けをしたりすることができる**こと。そして、習得した「ことばの力」と自分の生活体験を融合させながら物事の本質をとらえ、**対話を通して判断や調整を行い、新しい価値を創造すること**。

3. 研究の視点

(1) 言葉による見方・考え方を働かせる「**真正の学びの場**」の設定

日常生活・他の教科・領域と結びつき、
 依る相手を意識した言語活動の設定

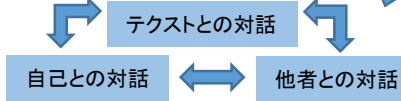
国語科の学びの本質に迫る課題設定と
 対話場面の設定

- 「本物」を活用した言語活動
 - ・新聞等のメディアの活用
 - ・「作り手」の思考の追体験
- 他教科・領域と関連した言語活動 (カリキュラム・マネジメントの視点)
 - ・地域の文学作品の取り扱い(総合)
 - ・取材・発表の効果的な方法(総合・学活)



テキストに表れる「ことば」に
 こだわった問いの設定

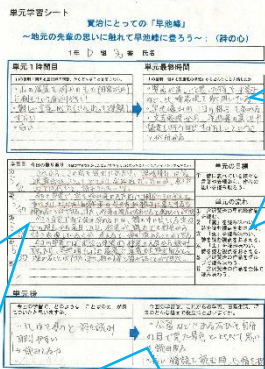
教科の本質に
 迫る対話による
 問いの探究



自己の読みの確立

(2) 国語科における**学びの自覚化**

① OPPシートの活用と振り返りの視点の整理



◎ 1単位時間の振り返りの視点

- 何が分かったか何ができたようになったか (思考力等)
- 誰の何という発言で自分の考えを構築したか(協調性等)
- 進んで学習に取り組む達成感を持てたか (主体性等)

単元を通じた自分自身の思考の変容

- 本単元に身に付けたい「ことばの力」
- 単元の見通し

身に付けた「ことばの力」がこれからどんな場で発揮されるか

② 振り返りのタイミングや形態の工夫

- 授業の終末にこだわらず、授業の中盤で**自分の考えが構築されそうなタイミング**で振り返る。
- 協働的に行う言語活動を振り返る際に、**ペアやグループで振り返り、相互に評価し合う。**

(3) 国語科における**情報及び情報技術**の活用

① 協働的な思考場面におけるロイロノートの活用

- 思考ツールを活用して協働的思考を整理し、見える化する
- 個人やグループで思考したことをロイロノートで視覚的に表現し、説明する



② 音声言語の見える化

- スピーチや話し合い活動を文字化し、効果的な話し方や話し合いの仕方を客観的に分析し、自分の言語活動をメタ認知する

